研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-155		21-315	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Contribution of sleep disturbances to the heterogeneity of cognitive and brain alterations in alcohol use disorder

アルコール使用障害における認知および脳の変化の異質性への睡眠障害の寄与

執筆者

Alice Laniepce [1], Najlaa Lahbairi [1], Nicolas Cabé [2], Anne-Lise Pitel [3], Géraldine Rauchs [4]

掲載誌

Sleep Med Rev. 2021 Aug;58:101435. doi: 10.1016/j.smrv.2021.101435

キーワード	PMID
アルコール使用障害、脳、認知、ニューロイメージング、再発、睡眠障害	33578081

要　旨

アルコール使用障害では、認知や脳の変化が一般的であり、患者によって重要な違いがある。睡眠障害もまた、これらの患者では非常に頻度が高く、飲酒停止後も続くことがあるにもかかわらず、ほとんど無視されたままである。睡眠障害は、特定の脳の変化の結果、認知障害を引き起こす可能性がある。しかし、睡眠障害は、共通の病態生理学的メカニズムによって、アルコールに関連した脳の異常や認知障害を悪化させることもある。その上、睡眠障害はアルコール使用障害発症の脆弱性因子であると思われる。臨床的な観点から、睡眠障害は治療成績に影響を与え、再発のリスクを高めることが知られている。本稿では、アルコール使用障害における睡眠障害と脳および認知の関係についてより深く理解するために、ナラティブ・レビューを実施した。我々は、アルコール使用障害患者において観察される脳と認知の変化の異質性は、少なくとも部分的には、関連する睡眠障害によって説明できることを示唆した。また、睡眠障害は心理社会的治療や禁酒の維持に必要な神経心理学的障害を悪化させることにより、間接的に再発を助長する可能性があると考えられる。臨床現場への影響と今後の研究の展望を提案する。